

## 通信技術の未来を拓く若手論文特集の発行にあたって



通信技術の未来を拓く若手論文特集編集委員会

委員長 笹森 崇行

通信は日常生活に役立つ様々なサービスに利用される基盤技術であり、常に社会から更なる飛躍・発展が求められている。今後も発展を続ける通信技術の未来を拓くためには企業や大学で日々努力している若手研究者が力をつけ、広い視野をもって活躍する事が重要である。そのためにも、日頃の研究・開発の成果を大会や研究会などで発表し、議論を経てアイデアを洗練させ、最終的に論文という形でまとめる能力を若いうちに身に付けることが大切である。和文論文誌には、読者が日本国内に集中するというデメリットがあるものの、論文執筆経験が少ない若手研究者にとっては母国語で記述できて論文をまとめあげる能力を習得しやすいというメリットももっている。

和文論文誌編集委員会では、学位取得やステップアップを目指す若手研究者を支援し、更には有益な情報を交換する場として若手研究者のための特集を特別企画しており、本特集で9回目となる。今回もこれまで同様、特集テーマとして技術分野を絞ることなく広く通信技術全般を対象とし、学生を含む概ね40歳以下の若手研究者が筆頭著者となる論文を募集した。今回の特集には論文17編、レター2編が投稿され、厳正な査読の結果として論文7編を採録とした。また、採録と

なった論文から1編を優秀論文賞として表彰することとした。

最後に本特集の発行にあたり、御投稿頂いた著者の方々、論文査読に御協力頂いた査読委員の方々、並びに事務局の方々に深く感謝する。判定にあたっては公正な採否の判定は当然であるが、通知文の作成にも細心の注意を払った。特に編集委員の皆様には、若手研究者が次の論文投稿に役立ててもらうことを心掛けて条件付採録或不採録のコメントを作成して頂いた。ここに改めて感謝する次第である。本特集をきっかけにして、若手研究者の方々が通信技術の未来を拓く研究・開発を続けられ、今後も意欲的に論文を投稿してくれることを期待する。

笹森 崇行 (正員：シニア会員) 1989東北大・工・電気卒。1994同大大学院博士課程了。同年同大・工・助手。1996仙台電波高専講師。1999秋田県立大講師。2003同助教授。2006同准教授。2017北海学園大・工・教授。現在に至る。博士(工学)。電磁波の散乱・回折、移動体通信用アンテナ、広帯域アンテナ、人体と電磁波の相互作用、アンテナ測定等の研究に従事。1996本会学術奨励賞、2012、2016、2018本会通信ソサイエティ活動功労賞、2015本会通信ソサイエティ Best Tutorial Paper Award各受賞。2019本会通信ソサイエティ和文論文誌編集委員長。IEEEシニア会員。

通信技術の未来を拓く若手論文特集編集委員会

委員長	笹小	森川	崇猛	行志	・三	上	学	・大	津	智	・大	山	卓	哉
副委員長	今鬼	田沢	美鳳	幸武	・北	島	一	郎	寺	平	・佐	藤	輝	被
委員	肖竹	村木	暢淳	超康	・谷	木	直	樹	内	正	・武	田	茂	樹
委員	富山	崎	浩	史輔	・藤	川	一	哉	村	知	・富	岡	多	子
					山	原	陽	祐	田	崇	向	井	宏	明
						本	正	満	辺	一				
							寛	寛	渡	俊				